

“思いやりの心による医療”を理念に

東京歯科大学 水道橋病院



水道橋畔発

第42号 令和7年12月

Contents

就任のご挨拶と
1p

水道橋病院内科の役割について
2p

東京歯科大学水道橋病院 内科 科長・特任教授 西田 次郎

補綴科（老年歯科補綴学講座）の紹介
3p

補綴科（クラウンブリッジ補綴学講座）の紹介
4p

補綴科（パーシャルデンチャー補綴学講座）の紹介
5p

地域医療連携室からのご挨拶
6p



就任のご挨拶と
水道橋病院内科の役割について
2p

東京歯科大学水道橋病院 内科 科長・特任教授 西田 次郎

平素より水道橋病院に多くの患者様をご紹介いただきありがとうございます。

私は市川総合病院内科、消化器内科において約30年間臨床医として勤務してまいりましたが、本年5月をもちまして定年退職いたしました。6月1日付で嘱託教員として水道橋病院内科科長を拝命し、新たな立場で仕事を始めております。退職前の12年間は市川総合病院長として病院運営にも携わらせていただきました。

長年にわたり歯科大学病院で働かせていただいたことで、歯科医療の実際やその重要性について少しは理解を深めることができたと自負しております。

さて、当院における内科の役割は、先ずは「高次歯科医療を担うと共に、安全で質の高い医療を提供する」という病院の理念の下で、患者様の基礎疾患の有無やその重症度を把握し、その情報を歯科の先生方に正確にお伝えし安全な歯科医療を支援することだと考えています。

特に心血管疾患、呼吸器疾患、糖尿病などの基礎疾患有する患者様においては、重大な合併症や医療事故を未然に防ぐためにも歯科・医科間の連携は極めて重要であり、病院に

おいては術後の在院日数の短縮にも寄与すると思われます。

内科外来においては、ウイルス感染症などの一般的な内科疾患に加え、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病の診療にも幅広く取り組んでいます。これらの疾患は歯科疾患との関連が深く、歯科・医科が協力して積極的に治療を行うことで高齢社会における患者様のQOL(生活の質)向上に貢献できるものと確信しています。歯科疾患に強く関連する内科疾患の診断・治療体制をさらに充実させるために脳神経、循環器、糖尿病、膠原病を専門とする非常勤医師にそれぞれの専門外来を担当していただいている。

高度先進医療がもてはやされる時代ではありますが、大病院にありがちな「病気を診て患者を診ず」といったことにならないように、患者様の立場に立った思いやりのある安心な医療を実践できるように努力してまいる所存でございます。

もとより浅学非才の身ではございますが、当院を受診される患者様、ご紹介いただいた先生方のご期待に応えられるよう努力してまいりたいと存じます。今後ともご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



補綴科 (老年歯科補綴学講座) の紹介

老年歯科補綴学講座 講師 高野 智史

【診療内容のご案内】

当講座では、「食べる機能を治し、支える」をコンセプトに、欠損補綴治療のみならず、口腔機能全体の維持・回復を目的とした包括的な診療を行っております。欠損部の診査診断に加え、口腔衛生状態、口腔乾燥、咀嚼機能、咬合力、舌・口唇運動機能、舌圧、嚥下機能などの口腔機能検査(図1、2)を実施し、総合的な評価に基づいて治療計画を立案いたします。

咀嚼機能については、患者様の主観的評価に加え、グミゼリーを用いた客観的検査(図2)を行い、機能改善の程度を数値化して確認しています。

【補綴治療の特徴】

義歯治療においては、レジン床義歯・金属床義歯のほか、ジルコニア床義歯、BPS (Biofunctional Prosthetic System) 痾歯、軟質リライン義歯(図3)など、患者様の状態やご希望に応じた多様な選択肢



(図1) 舌圧の計測に用いる装置



(図2) グミゼリーを用いた咀嚼能力検査に用いる装置

を用意しております。また、デジタルデンチャー(図4)など新しいデジタル技術を取り入れた治療にも対応しております。



(図3) 高度顎堤吸収症例に応用した軟質リライン義歯

【所属歯科医師】

当講座には、日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本口腔インプラント学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会などに所属する歯科医師が在籍しています。

日本補綴歯科学会の指導医3名、補綴歯科専門医3名、日本補綴歯科学会の専門医1名、日本老年歯科医学会の指導医2名、認定医4名が在籍し、定期的な症例検討会・勉強会を通じて研鑽を積んでおります。

【ご紹介のお願い】

咀嚼機能の低下、義歯の適合不良、口腔機能低下症など、「食べる」「話す」といった生活機能に課題を抱える高齢患者様の診療を行っております。

こうした患者様がおられましたら、ぜひ当講座へご紹介いただけますと幸いです。専門スタッフが連携し、評価から治療、維持管理まで丁寧に対応させていただきます。



(図4) 設計中のデジタルデンチャー



(クラウンブリッジ補綴学講座) の紹介

クラウンブリッジ補綴学講座 准教授 野本 俊太郎

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。本号では補綴科・クラウンブリッジ補綴学分野の特徴についてご紹介いたします。

近隣の先生方から紹介をいただいた患者様の診療に日々励んでおります。クラウンブリッジ補綴学講座には日本歯科専門医機構認定の補綴歯科専門医2名のほか、日本補綴歯科学会指導医、日本口腔インプラント学会指導医、日本接着歯学会指導医がクラウンブリッジ補綴治療を中心とした補綴治療全般の診療指導にあたっています。

ご紹介いただいた患者様は日本補綴歯科学会専門医や認定医、日本歯科審美学会認定医、日本デジタル歯科学会専門医を取得した歯科医師を含む9名の常勤歯科医と3名の非常勤歯科医が診療にあたっております。

近年のICT技術発展は歯科治療にも好影響をもたらしており、当院補綴科はさまざまな新技術を導入しております。補綴装置の製作に際しCAD/CAM技術はジルコニアなどの審美歯科材料加工に必須プロセスとなっています(図1)。CAD/CAM加工は、ジルコニアだけでなくハイブリッドレジンやPEEKなどにも利用しています。



(図1) CAD/CAMを利用したオールセラミック治療



(図2) 保険適用のCAD/CAM冠

診療報酬請求に適合したデジタル歯科治療に対しては保険適用で治療しております(図2)。

非接触式の印象採得(型どり)である光学印象は嘔吐反射の誘因が少なく歯の色調も同時に記録できるため患者様の負担が少ない術式です。補綴科に配備されていますので、適宜診療に取り入れています。また審美歯科治療の精度向上のために分光光度計を用いたデジタル色調計測機器(図3)やフェイススキャナー(図4)なども症例により使用しております。



(図3) 分光光度計を利用した色調計測

CAD/CAMと比較して端材の発生が少ない3Dプリンターも設置されていますので利用可能な側面で活用しております。さらに補綴科診療室の隣には歯科技工室があり、熟練の歯科技工士7名と連携しながら治療を行う環境が整っています。

このように様々な審美歯科治療方法を選択肢として、患者様との十分な相談を経て治療にあたっております。当該分野の治療についてお困り事がございましたら、紹介状を作成いただき当院を患者様に案内いただくことで対応させていただきます。



(図4) フェイススキャナーによる顔面情報記録



補綴科 (パーシャルデンチャー補綴学講座) の紹介

パーシャルデンチャー補綴学講座 講師 大平 真理子

【所属歯科医師】

当講座の歯科医師は日本補綴歯科学会をはじめ、日本口腔インプラント学会、日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会といった各専門学会に所属し、専門的知見を活かして欠損補綴治療にあたっています。また、講座内での症例検討会や他科との合同カンファレンス、外部講師を招いた勉強会を開催し、日々研鑽を重ねています。

【治療の特徴と流れ】

欠損部のみならず、残存歯や顎堤の状態、咬合・咀嚼機能、口腔関連QOL(生活の質)の評価などを総合的に評価し、将来の口腔内の変化を見据えた治療計画を立案



します(図1)。症例に応じて、局部床義歯は保険適用のレジン床義歯から金属床義歯、各種アタッチメントを用いた義歯まで幅広く対応しています。また、CAD/CAM技術を活用したデジタルデンチャー製作や、ジルコニア製の内冠とグラスファイバー強化型コンポジットレジン製の外冠を支台装置として用いたテレスコープクラウン義歯の製作など、新技術の導入にも積極的に取り組んでいます(図2)。

【診療体制】

治療に際しては、患者様と十分にご相談のうえ、最適な補綴治療をご提案いたします。齲歯・歯周病治療、歯科矯正治療や抜歯術などの前処置が必要な場合は、他の診療科と連携して治療を進めます。そのため、治療期間を要する場合もございますので、紹介時に患者様へのご説明をお願いいたします。



(図2) CAD/CAM技術で製作したテレスコープクラウン義歯の一例
出典:Tasaka et al., J Prosthodont Res. 2023; 67: 487-492.(一部改変)

補綴科を

ご紹介いただくにあたり

対象となる患者様

- ・補綴歯科治療全般、加齢や疾患により口腔機能が低下した方
- ・全身状態に配慮した補綴治療が必要な方
- ・審美補綴(メタルフリークラウン)、歯科矯正治療前後の補綴治療

ご紹介方法

補綴科宛ての紹介状をご持参のうえ、予診の時間帯にご来院ください。

待機期間

1か月程度

病院長 副病院長 副病院長 副病院長 副病院長	田口円裕 西井康一郎 平田創一郎 上田貴之 笠原清弘	令和7年12月1日現在
東京歯科大学水道橋病院 診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)		

診療科名	職名	氏名	講座名	診療科名	職名	氏名	講座名
保存科	客員教授	古澤成博	歯内療法学	歯科麻酔科	部長・教授	松浦信幸	歯科麻酔学
	特任教授	吉田隆			准教授	小鹿恭太郎	
	准教授	山田雅司			医局長・講師	吉田香織	
	講師	田宮資己			助教	齋藤菜月	
	助教	岩澤弘樹			レジデント	飯村真理子	
		番場桃子				津谷瑠理	
		倉持仁			部長・教授	西井康	
		谷光希			客員教授	末石研二	
	レジデント	江川加奈			准教授	片田英憲	
		高原千枝			医局長・講師	石井武展	
		中島克真			助教	立木千恵	
補綴科	教授	齋藤淳	歯周病学	矯正歯科	医局長・講師	有泉大	歯科矯正学
	准教授	今村健太郎			助教	戸村拓真	
	講師	山下慶子			レジデント	山下悠	
	助教	久永理央				勝田真央	
		宮田直樹				小鹿楳子	
	レジデント	齋藤佳美				新井田張	
		小久保楓香				星沙弥佳	
	部長・教授	村松敬				遠藤百華	
	准教授	杉戸博記				小林葵	
	講師	春山亜貴子				菅家杏珠	
口腔外科	医局長・講師	半場秀典	保存修復学			藤森加帆	
	助教	石塚久子	小児歯科	部長・教授	新谷誠康	小児歯科学	
	レジデント	三谷佳歩		医局長・准教授	櫻井敦朗		
	部長・教授	上田貴之		講師	辻野啓一郎		
	医局長・准教授	竜正大		助教	本間宏実		
	准教授	中島純子		レジデント	田中亜生		
	講師	高野智史			平井研吾		
	助教	太田緑			田中康裕		
		齋藤壯			岩澤有華		
	助教	中澤和真			渡辺麻衣子		
口腔外科		小林嵩史	口腔インプラント科	部長・教授	佐々木穂高	口腔インプラント学	
		山本吉紀		講師	古谷義隆		
	レジデント	田中希		医局長・講師	平野友基		
		竹内みのり		助教	原田惇朗		
	教授	関根秀志		レジデント	重松正樹		
	臨床教授	佐藤亨			鈴木航		
	准教授	野本俊太郎			黒田玲奈		
	講師	(酒井貴徳)		科長・教授	福田謙一		
		黒田祥太		客員教授	大多和由美		
	助教	平野瑞穂		医局長・助教	加藤栄助		
口腔外科		大和田碧		助教	國奥有希		
	レジデント	佐藤真紀	スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック	レジデント	太田雄一郎	口腔健康科学	
		大熊宏岳			松永健		
	教授	山下秀一郎			田澤萌香		
	教授	坂彰規			高尾千紘		
	客員准教授	堀田宏巳			樋本彩由子		
	講師	大平真理子		科長・教授	中島一憲		
		加藤芳実		医局長・助教	筒井新		
	助教	小林裕		講師	石田瞭		
		北村旭		准教授	大久保真衣		
口腔外科		加藤雅人		医局長・助教	〈加藤栄助〉		
		伊東紘世		レジデント	芳村竜秀		
		木村遼太			部長・教授	後藤多津子	歯科放射線学
		荒木美汐			客員教授	岡野友宏	
		松添裕一郎			医局長・講師	首成美佳	
	部長代理・教授	渡邊章		講師	小高研人		
	客員教授	柴原孝彦		助教	(佐藤仁美)		
		高野正行			松元秀樹		
	講師	吉田秀児			和田大岳		
		加藤宏	臨床検査科	部長・教授	松坂賢一		
口腔外科		有泉高晴		客員教授	橋本貞充	病理学	
	助教	林宰央		准教授	國分克寿		
		村松賢太郎		講師	中島啓		
		松崎勇佑		助教	明石良彦		
	レジデント	小坂悠樹			山本圭		
		小原身知子	内科	科長・特任教授	西田次郎		
		井川瑞葵		特任教授	仁科牧子		
	部長・教授	片倉朗		教授	瀬田範行		
	病院教授	笠原清弘		准教授	大久保佳昭		
	医局長・准教授	菅原圭亮		特任教授	ビッセン弘子		
口腔外科	講師	西山明宏		科長・准教授	太田友香		
		小山侑		助教	緑川桃佳		
	助教	小谷地雅秀	眼科	()長期出張中 ()兼務			
		加藤楨彬					
		脇田一郎					
	レジデント	杉浦慧					
		岩崎亮					
		齊藤萌					
		橋本菜央					
	口腔病態外科学						



地域医療連携室からのご挨拶

平素より、患者様のご紹介ならびに地域医療連携にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当院の地域医療連携室は、2名体制で運営しており、以下の業務を通じて、皆様との円滑な連携を図っております。

クリニック様および患者様からのお問い合わせ対応

水道橋畔発の発行

医療連携協力医療機関認定証の発行

医療連携報告会の企画・運営

外来のご案内・診療情報提供書の発送

摂食嚥下リハビリテーション科との連携業務

今後も、地域の皆様に安心して医療をご提供できるよう、連携強化に努めてまいります。何かご不明な点やご相談がございましたら、どうぞお気軽に地域医療連携室までご連絡ください。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

歯内領域の患者様紹介に関してのお願いと バイオセラミック材料を用いた歯内療法について

お願い

- 現在、新患予約が非常に混み合っており、本格的な治療開始まで6か月以上お待ちいただいております。ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。ご紹介時に、患者様にご説明いただけますと幸いです。

バイオセラミック材料を用いた歯内療法について

- 本院では、複雑な形態を有する歯の根管治療や難治性の歯内疾患などの高度な治療に対して、ご希望される患者様へはバイオセラミック材料を用いた歯内療法を自由診療で行っております。詳細は、東京歯科大学水道橋病院のホームページに掲載させていただいておりますので、ご参照ください。

*保険診療との主な違い

- 自由診療では指導医・専門医が、適切な診断と技術のもと、高い評価を受けている器材・薬剤を使用することで、より高いクオリティの診療を提供いたします。
- 専門的技術の提供:常勤の日本歯内療法学会指導医・専門医が直接治療いたします。
- 使用する特殊器材・薬剤:新型Ni-Ti ロータリーファイル、手術用顕微鏡、バイオセラミック材料等を使用させていただきます。
- 十分な診療時間の確保:1診療時間に1.5~2.0時間確保して治療を行います。

**臨床検査科では、地域の先生方からの
細胞診ならびに組織診のご依頼を承っております。
詳しくは右記のQRコードをご参照ください。**

採取やご依頼
方法はこちら



メールでの
ご相談はこちら



東京歯科大学 水道橋病院

住所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18

電話番号 03-3262-3421(代表)

ホームページ <https://www.tdc.ac.jp/sh/>



東京歯科大学水道橋病院

検索

6p

編集後記

2025年も早いもので、もうすぐ終わろうとしています。今年話題となった言葉に贈られる「2025 T&D保険グループ新語・流行語大賞」の候補30語が11月5日に発表され、地球温暖化の影響で四季が夏と冬に二季化している状況を表す「二季」という言葉がノミネートされ、話題となりました。長い夏が終わり急に寒くなつたことで、体調を崩された方もいらっしゃったのではないかでしょうか。二季化は我々の健康に対してだけではなく、さまざまな分野に対して影響をもたらすといわれています。我々が徐々に二季化に順応しなくてはいけないかもしれませんのが、日本の美しい四季がいつまでも続くことを願わざにはいられません。

(小鹿 恒太郎 記)